

- Smithson, S. B., Brewer, J. A., Kaufman, S., Oliver, J. E. and Hurich, C. A. (1979) Structure of the Laramide Wind River Uplift, Wyoming, from COCORP deep-reflection data and from gravity data. *J. Geophys. Res.*, 84, 5955-5972.
- Smythe, D. K., Dobinson, A., McQuillin, R., Brewer, J. A., Matthews, D. H., Blundell, D. J. and Kelk, B. (1982) Deep structure of the Scottish Caledonides revealed by the MOIST reflection profile. *Nature*, 299, 338-340.
- Spence, G. D., Clowes, R. M. and Ellis, R. M. (1985) Seismic structure across the active subduction zone of western Canada. *J. Geophys. Res.*, 90, 6574-6772.
- St-Jullien, P., Slivitsky, A. and Feininger, T. (1983) A deep structural profile across the Appalachians of southern Quebec. In: *Contributions to the Tectonics and Geophysics of Mountain Chains*. ed. by R. D. Hatcher, Jr., H. Williams, and I. Zietz, *Geol. Am. Memoir*, 158, 103-111.
- Warner, M. R. (1986) Deep seismic reflection profiling the continental crust at sea. In: *Barazangi and Brown (1986a)*, 281-286.
- Warner M. and McGeary, S. (1987) Seismic reflection coefficients from mantle fault zones. *Geophys. J. R. astr. Soc.*, 89, 223-230.
- Wentworth, C. M., Zoback, M. D., Griscom, A., Jachens, R. C. and Mooney, W. D., (1987) A transect across the Mesozoic accretionary margin of central California. *Geophys. J. R. astr. Soc.*, 89, 105-110.
- Werner, H. (1987) Seismische Geotraversen querend die Alpen. *Prakla-Seismos Report*, 1+2/87, 46-61.
- Yorath, C. J., Clowes, R. M., Green, A. G., Sutherland-Brown, A., Brandon, M. T., Massey, N. W. D., Spencer, C., Kanasewich, E. R. and Hyndman, R. D. (1985) Lithoprobe-phase 1: southern Vancouver Island: preliminary analyses of reflection seismic profiles and surface geological studies. In: *Current Research, Part A, Geol. Surv. Canada, Paper 85-1A*, 543-554.
- Yorath, C. J., Green, A. G., Clowes, R. M., Sutherland-Brown, A., Brandon, M. T., Kanasewich, E. R., Hyndman, R. D. and Spencer, C. (1985) Lithoprobe, southern Vancouver Island: Seismic reflection sees through Wrangellia to the Juan de Fuca plate, *Geology*, 13, 759-762.

最近中国で発見された新鉱床

岸本文男 (地質相談所)

Fumio KISHIMOTO

貴陽市でボーキサイト鉱床を確認

貴州省有色地質勘探公司第5総隊は5年の探査を経て貴陽郊外の斗蓬山で鉱量1,100万トンのボーキサイト鉱床を探査・確認した。この鉱床は貴州モリブデン廠から7.5kmほどのところであって面積本5万km²東西2鉱体区に分れ合せて9鉱体からなり鉱体の平均厚度は2.7m Al₂O₃/Si₂O₃値が6以上である。なお鉱体の賦存深度は50—100mの範囲にある。

呉龍根 (中国地質報, 1987. 9. 18)

華北卓状地でのウラン鉱床の探査

核工業部東北地質勘探局の第247地質大隊は大型・高品位・高収益性の鉱体の探査に積極的に取組み5年間の努力のすえ1987年末に一つのウランモリブデン構成などの大型多金属鉱床を発見した。

この鉱床の稼行価値を評価した結果はウランモリブデンなどの金属鉱の潜在経済価値が25億元を越え鉱体の賦存深度が浅く規模が大きく鉱体が集中し総合利用率が高く水溶精練に好適であるなどの特徴を備え総合開発・综合利用に適している。しかも投入すべき

資本は国家が規定している100m・1万元・ウラン1tという標準値よりもはるかに少なくて済み鉱量計算値からすると平均ウラン1t当りわずか19.2mの作業量であり0.24万元の資金となる。

この一鉱床の発見は華北卓状地でのウラン鉱床の探査の展望を開きその鉱床生成法則の研究に根拠を与え951鉱床の稼行に対する初歩的な評価を可能にし543鉱床の深部における地質的ウラン鉱量に一定の見通しを与えてくれた。またこの鉱床の発見は華北地方での大型ウラン鉱床の探査が有望なことを教えてくれたのである。顔凱旋 (中国地質報, 1988. 2. 5)

湖北省南西部で大型セレン鉱床の発見

最近湖北省地質鉱床産局第2地質大隊は同省南西部の中央部において二疊紀下部統最上部の孤峰層の薄い含炭珪質岩中で堆積型の大型単独セレン鉱床を探査・確認しその探査によってセレン胚胎層が厚さ10—14m前後セレン含有品位が一般に10—数100ppm中部主含セレン層が厚さ2—4mでセレン含有品位450—5,000ppmに達し含セレン層の分布面積は50km²を越えている。宋成祖 (中国地質報, 1988. 3. 11)

4. 運営

- 4.1 会議の事務局は存在しないので 会議の事務の責任は開催国から開催国へ引き継ぐ。
- 4.2 事務打ち合せ会は プログラムの一部として開き 運営事項を検討し 申し送る。
- 4.3 次の会期の開催国は 事務打ち合せ会における会員の合意で選び 通常 会員調査所で持回りとする。
- 4.4 会議の開催国は 次の責を負う。

- 4.4.1 会議のプログラムを用意し 会員に配布する。また 前もって日程を印刷して配付する。
- 4.4.2 会議の事務局を指名する。
- 4.4.3 終了後 できるだけ早くプロシーディングを用意し 会員に配布する。

5. 一般規定

- 5.1 この規約を変更する提案は事務打ち合せ会で検討するものとし 会員の3分の2の出席と承認を要する。

最近中国で発見された新鉱床

岸本文男(地質相談所)

貴州省の磷鉱探査鉱量は中国一

貴州省での磷鉱探査事業は大きな成果を挙げ 探査確認されたその総鉱量は21.1億tに達し 中国省・自治区・直轄市中の第一位を占め この省の磷鉱石の品質は優秀で 平均品位は18%から36% P_2O_5 含有率が30%以上の鉱量でも全国一である。

貴州省の磷鉱鉱床は数多く 省の地質産局の探査によって33の鉱床の存在が確認され 開陽県の洋水 瓮安県 福泉県の瓮福 績金県の新華など5カ所の大型磷鉱鉱床と遵義市の松林の中型磷鉱鉱床が試錐探査などによって把握された。とくに開陽県の洋水の大型磷鉱鉱床は10鉱体区からなり 探査確定鉱量は総計34,790万トンに達し 馬路坪・用沙坝・沙坝土などの鉱体群では露天掘がすでに行なわれていて その鉱石は10の省・自治区に送られ 経済収益が高く 社会効果が大きく 中国としては年間産額 100万ドルを越える大型磷鉱企業の一つとなっている。瓮安県と福泉県の超大型磷鉱鉱床では詳細な調査と精密な探査によって8億tの鉱量が把握されたが なかでも福泉県の高坪の大型磷灰岩鉱床は規模がもっとも大きく 品質がもっとも優れ 露天掘実収率がもっとも高く 探査確定鉱量は3億tで 鉱層の平均厚度が14m P_2O_5 平均品位が25%で とくに30%を越える富鉱が鉱量全体の27%を占めている。そして 鉱体の賦存深度が浅く 大部分が露天掘り可能で 現在アメリカとの共同開発が始まろうとしており 今年中に全面的な鉱山建設が開始される。生産に入れば年産額が1.5億元に達するはずである。

楊純益(中国地質報 1988.6.27)

中国でまた一つの鉛・亜鉛鉱山が誕生

“第6次五カ年計画”での国家重点建設項目の一つである廠坝鉛・亜鉛鉱山は その全選鉱系統の試運転が進み 1987年に正式な生産に入る。廠坝鉛・亜鉛鉱床は西成鉱床帯の一部で 廠坝鉱山の建設と開山は 中国でまた一つの重要な有色金属工業基地が秦嶺地方の西部に興るといふ印しである。

廠坝鉛・亜鉛鉱床は甘肅省成県の黄洛関郷にあり その鉱区面積はわずか4km²にすぎないが 鉱量は1,000万トンに近い。規模が大きく 鉱量が集中し 品位が高く 賦存深度が浅く 開発条件に恵まれているという特徴を備えている。したがって 開山後の廠坝鉛・亜鉛鉱山は露天掘が主体になる。

廠坝鉛・亜鉛鉱床は 大きくは西秦嶺多金属鉱床生成帯に属する。したがって 上記の西成鉱床帯はこの多金属鉱床生成帯の一部を構成し 東が陝西省の鳳大地区まで 西が岷県まで伸び 総延長が数100km 幅が数10kmの西成鉱床帯には 錫・亜鉛・銅などの有色金属鉱床が賦存する。この鉱床帯には 廠坝 畢家山 鄧家山 洛坝の大型鉛・亜鉛鉱床と八方山 銀母寺 峰崖 鉛銅山などの中型鉛・亜鉛鉱床があり 小型の鉛・亜鉛鉱床はまるでキラ星のごとく分布している。

廠坝鉛・亜鉛鉱床区域内に露出・分布する地層は主としてデボン系中部統の弱変成岩系で 鉱床胚胎層は陸源細粒碎屑岩と結晶質石灰岩との間に位置し 陸源碎屑岩が炭酸塩岩に移過する地域に該当する。この移過帯は当該鉛・亜鉛鉱床の生成に適した部位である。したがって 西成鉱床帯は今後の鉱床探査の有望地域である。

蔡雄飛(中国地質報 1987.1.26)